

平成 29 年度未来図会議年間テーマ

「はまって、かだつて」に始まるノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり
～障がいや個性などを意識することのない、誰もが暮らしやすいまち～

平成 29 年度 第 2 回（東日本大震災後 第 7 8 回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 29 年 6 月 23 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

◆テーマ

「はまかだスポットガイドと居場所づくりについて①」

- 1 開 会
- 2 挨 拶（陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚）
- 3 内 容

（1）未来図会議が目指してきたこと

陸前高田市被災絆づくりアドバイザー 岩室紳也

（2）はまかだスポットガイド（デモ版）について

一般社団法人 SAVE TAKATA 佐藤睦志氏

（3）はまかだスポットにおける実例紹介について

陸前高田市民生部保健課 生活支援コーディネーター 金野康子

（4）参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだつてけらいん」

⇒テーマ：はまかだを推進するための協働（お互いさま）とは

（ 誰が、いつ、どう動いたか、これから誰が、どう動けばいいのか
強みのかけ算を発揮するためには… ）

- 4 その他連絡・アナウンス

- 5 閉 会

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回（第 7 9 回）：平成 29 年 7 月 20 日（木）13：30～15：30

◆7月メインテーマ： 地域に入っていくということとは？

～その地域の持っている力を醸成していくためには～

◆会場：陸前高田市役所 4 号棟 3 階第 6 会議室

平成29年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議の予定

○日程（※テーマは公募により決定、9月は実施しない）

H29年：	7月20日（木）	13：30～15：30
	8月18日（金）	13：30～15：30
	10月13日（金）	13：30～15：30
	11月9日（木）	18：30～20：30
	12月15日（金）	13：30～15：30
H30年：	1月19日（金）	13：30～15：30
	2月16日（金）	13：30～15：30
	3月23日（金）	13：30～15：30

○未来図会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災からの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

○大きな方向性

- ・ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進
「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・市民・他分野機関、他地域との協働、未来図（計画）策定
- ・居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

平成29年度 第2回
(震災後78回)
陸前高田市
保健医療福祉未来図会議

平成29年6月23日(金) 13:30~15:30
陸前高田市役所4号棟第6会議室

本日(H29.6/23)の会議の概要

◆テーマ

はまかだスポットガイド
と居場所づくりについて①

本日(H29.6/23)の会議の進め方①

◆タイムスケジュール

(1) 未来図会議が目指してきたこと

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー
岩室紳也

(2) はまかだスポットガイド(デモ版)について

一般社団法人SAVE TAKATA
佐藤睦志氏

本日(H29.6/23)の会議の進め方②

◆タイムスケジュール

(1) はまかだスポットにおける実例紹介について

陸前高田市民生部保健課
生活支援コーディネーター 金野康子

本日（H29.5/12）の会議の進め方

◆タイムスケジュール

（3）参加者のみなさまと

「はまってけらいん、かだつてけらいん」

⇒テーマ：はまかだを推進するための協働

（お互いさま）とは

誰が、いつ、どう動いたか、これから

誰が、どう動けばいいのか

強みのかけ算を発揮するためには・・・

4 その他連絡・アナウンス

人と人をつなぐことを いとわない仲間づくり

会うこと、話すこと、参加することで

自分も相手も元気にする

そんな居場所づくり、健康づくり
を

仕掛け続けている
のが、多くのみなさまの活動



行政（一機関）の限界を知る

	実施回数	定員	2次予防事業 対象者(人)	参加者(人)	参加率(%)
平成 25年度	80	120名 (15名×8教室)	1,563	128	8.1



〈教室の内容〉

★1教室10コース

★運動器機能向上がメイン。ただし、口腔、栄養についても取り組んである

★理学療法士、作業療法士、介護予防指導員、ケアマネージャーなどが講師を務め、個別プランをたて評価を行っている。

65歳以上：約7200名

ハイリスクとポピュレーション フォーマルとインフォーマル

ヘルスサービスの方向転換

オタワ憲章では、より健康的な暮らしを実現していく上で、保健衛生分野が果たす重要な役割を強調している。その実現には全ての専門職・保健サービス機構・行政組織のみならず、その保健衛生分野がサービスを行う対象である個人やコミュニティもその一翼を担っている。また、現状ではほとんどの事例に投入される予算が不足している。また、現状ではほとんどの事例に投入される予算が不足している。

行政、関係機関、地域住民との協働で健康な居場所づくり

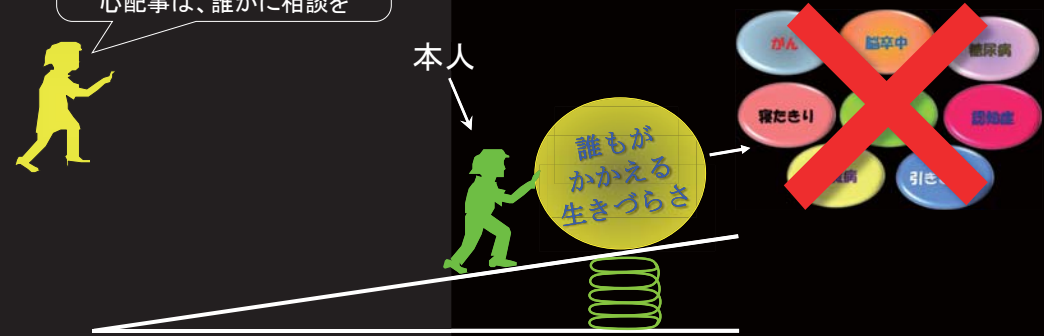
健康成果の達成の上で、保健分野以外の役割の方が効果的なこともあり得る。こうした分野の枠を超えた保健活動の支援における保健衛生分野の重要な役割を行政はよく理解する必要がある。

従来(指導型)の健康教育(日本の健康づくり)

地域保健関係者

健診受けた??
飲み過ぎ、食べ過ぎ、運動不足
心配事は、誰かに相談を

目指すのは
病気に、障がいにならない人生



(島内 1987、吉田・藤内 1995を改変)

ヘルスプロモーションの理念(世界がめざす健康づくり)

関係性の再構築で
居場所づくり

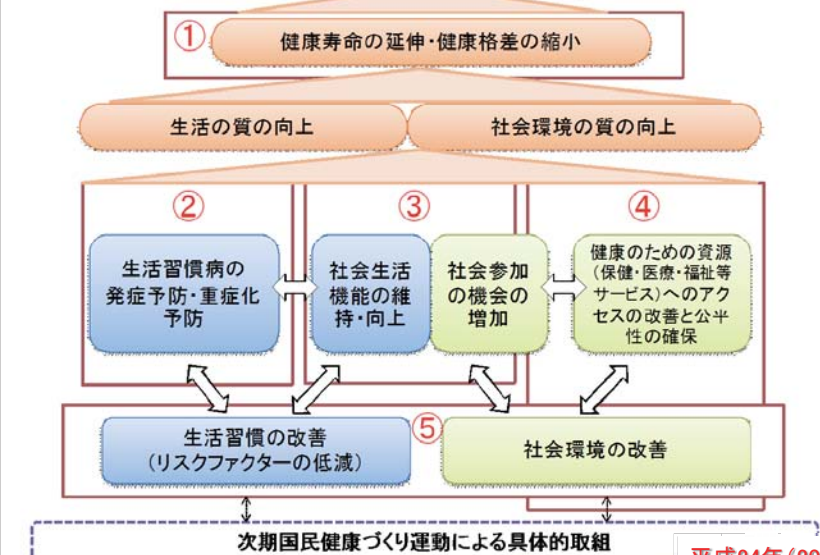
めざすものはWell-being、QOLの向上



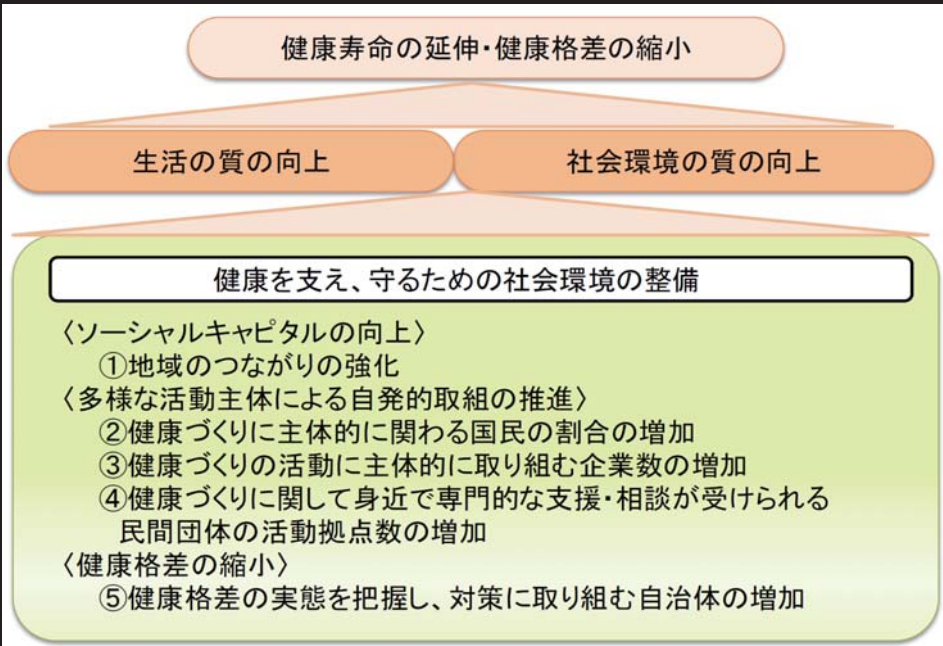
(島内 1987、吉田・藤内 1995を改変)

健康日本21(第2次)(2013年~)概念図

全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現



健康日本21(第2次)概念図



絆

はどう読みますか

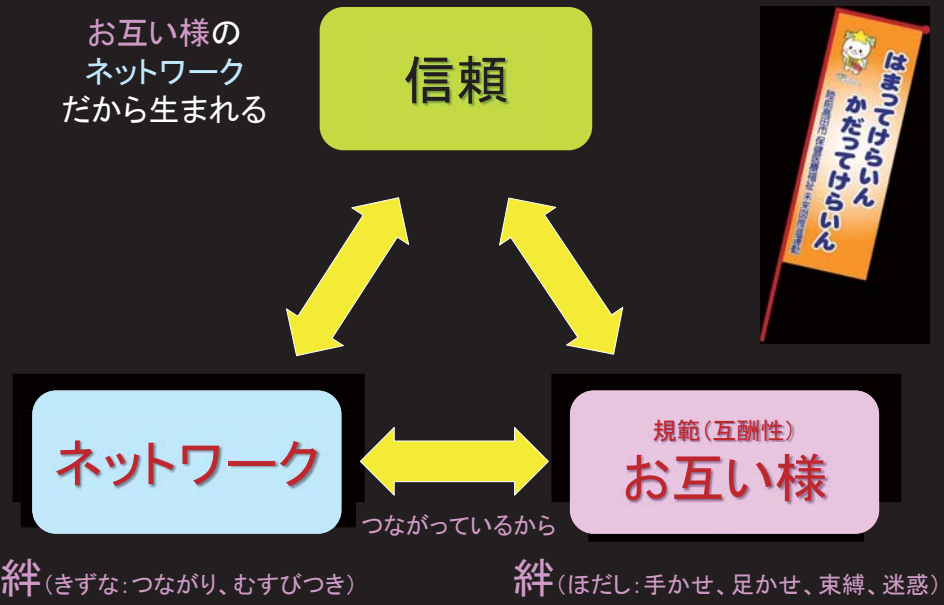
絆(きずな)

(つながり むすびつき)

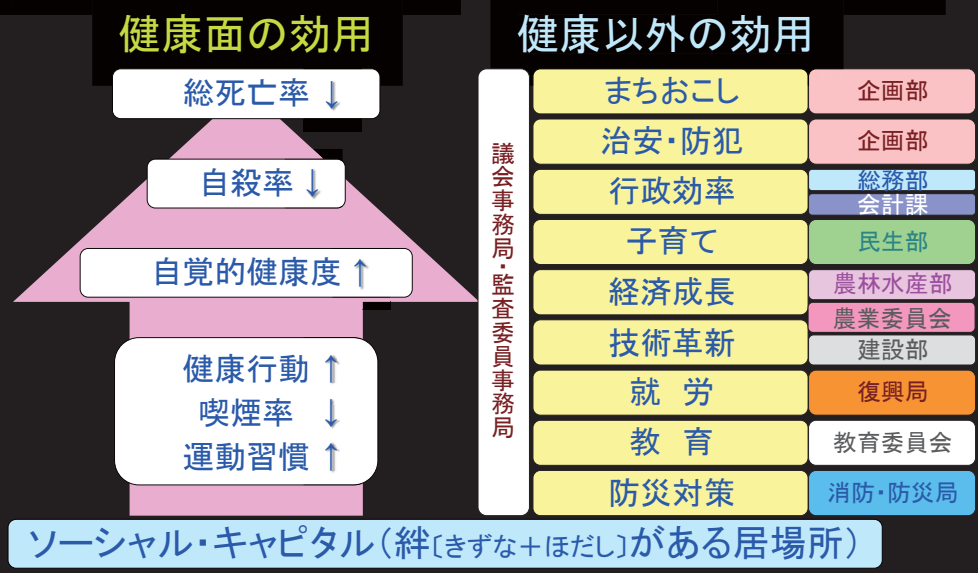
絆(ほだし)

(手かせ 足かせ 束縛 迷惑)

ソーシャル・キャピタル(絆(きずな+ほだし)がある居場所)の三要素



ソーシャル・キャピタル(絆(きずな+ほだし)がある居場所)の効用



平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究」
http://www.jppha.or.jp/sub/menu04_10.html

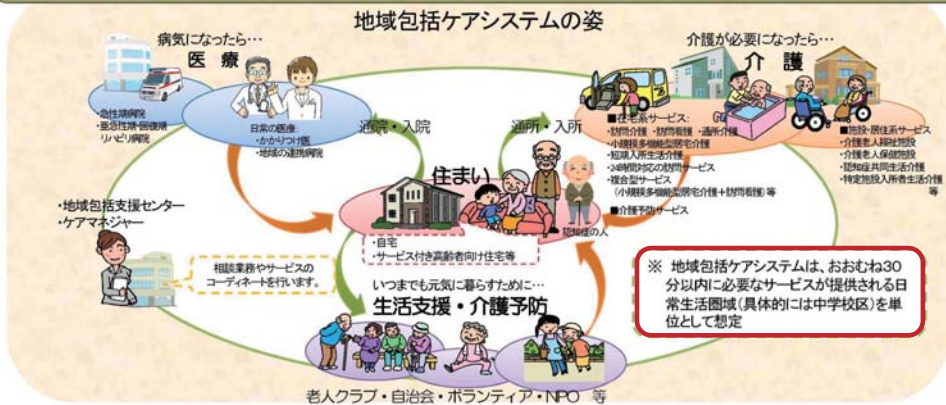
地域包括ケアシステム

○ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。

○ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

○ 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。

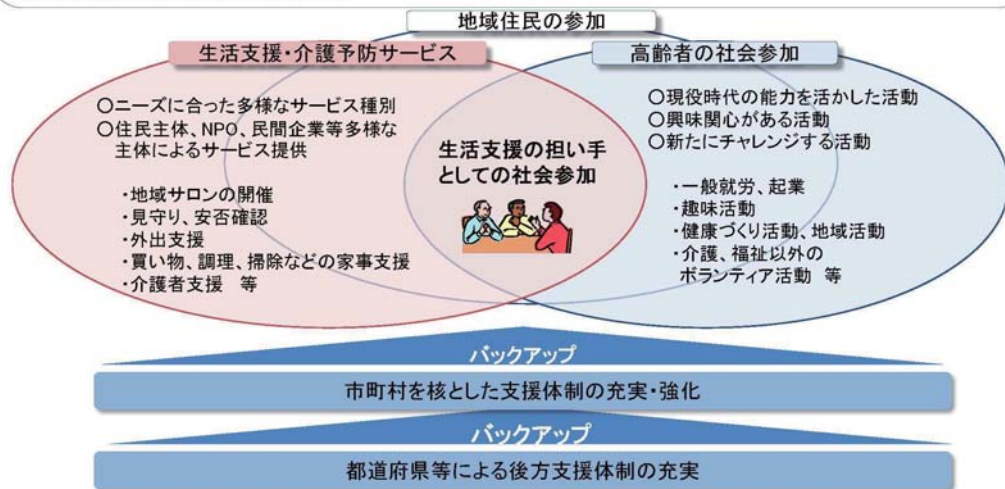


日常生活圏 30分以内にサービスが提供される



生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、**生活支援の必要性が増加**。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の**多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要**。
- 高齢者の介護予防が求められているが、**社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる**。
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向け、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「**生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)**」の配置などについて、**介護保険法の地域支援事業に位置づける**。



生活支援コーディネーターの活動について

1. 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）と協議体の活動理念

利用者、他の専門職、行政職員等とも共有できるよう働きかける

■利用者への支援やサービスの質に関する理念 **ハイリスクアプローチ**

- 地域のできるだけ多くの主体や元気な高齢者の参加を得てサービスが提供できる体制を整える。
- 高齢者が、地域での生活を円滑に行えるように、その人の状態に最適な生活支援サービスの活用を支援する
- 生活支援サービスの質を担保する（役立つ、使いやすい、信頼がおける、自立や社会参加に資する、ソーシャルサポートを維持する）

■地域の福祉力の形成に関する理念

- 支え上手、支えられ上手を増やす
- 地域の参加を広げ、地域の力量を高める
- 地域とともにサービスや活動を作り出し、**一緒に運営していく**

ポピュレーションアプローチ

■地域社会の持続可能性に関する理念

- 皆で資源を持ち寄り、賢く・効率的に財源を使う
- 地域社会の持続可能性を高める

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000084710.html>

多様な主体による生活支援・介護予防サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を支援

- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- ・「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の配置や協議体の設置などに対する支援



ソーシャル・キャピタル（絆（きずな+ほだし）がある居場所）の三要素

信頼

協働の基本

生活支援コーディネーター

ネットワーク

規範（互酬性）
お互い様

絆（きずな：つながり、むすびつき）

絆（ほだし：手かせ、足かせ、束縛、迷惑）

人は **経験** に学ぶ

絆（ほだし）
（ネットワーク）

経験していないことは **他人事**

絆（ほだし）
（ネットワーク）



(3) 参加者のみなさまと

「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：はまかだを推進するための協働
(お互いさま) とは

誰が、いつ、どう動いたか、これから
誰が、どう動けばいいのか
強みのかけ算を発揮するためには・・・

みんなで「はまかだ」①

はまかだを推進するための協働(お互いさま)とは？

- ・認知症カフェの運営 ⇒参加者も手伝いながら運営しているのがいい
- ・SAVE ⇒地域のことがわからなかったが、知ることができた
仕事に対して、ソーシャル・キャピタルを意識できた
- ・得意分野をそれぞれ意識して進めるとよいのでは
- ・市役所: やりたいことと、やらなければならないことがある
⇒外の団体を知ることが大切
- ・コーディネーターは、人見知りをしないことが大切
地域に出るのを恐れず

みんなで「はまかだ」②

はまかだを推進するための協働(お互いさま)とは？

- ・高齢者: はまかだスポット行きたいけど、足がない
会員制など種類がある、近くにあってもあわなくても行きづらいのもある
- ・若い世代: 子育て世代だけでなく、高齢者の世代も集まれるといいのではないか
⇒高齢者も元気になる、笑顔になる
⇒おばあちゃんの知恵みたいな感じもいいのでは
- ・引きこもりにならずに、週1回でも外に出てほしい
人とつながっていてほしい
⇒ そのために保健師など、つなげる人がいる
- ・協働していくためには、未来図会議のメンバーだけでなく、住民同士も・・・
⇒場所を改めてつくるのではなく、天気がいいとき、外に出る、ベンチに座るなど
- ・人をつなげたり、寄せ付ける、「人」がいる
⇒協働のキーパーソンにしていこう
- ・畑や田んぼなど、昔からしてきたこと
⇒昔からあるものができるような場所づくりも大切

みんなで「はまかだ」③

はまかだを推進するための協働(お互いさま)とは？

- ・震災後、気持ち、時間的にも余裕がなくなった
⇒子ども会、近所づきあい、減ってきたかな・・・
※地域行事など、とりあえず、知っている人に声をかけられたら出てみること大事
※自分にできることを、できるだけ、やる、行動する、手伝ってほしいこと発信する
遠慮せずに声をかけあえるように
できないときは、つなぐ、大変そうなときは専門職につなぐことも・・・
とりあえず声をかけていくこと
世代間でのお互いさま、社会資源は限られている、分野にとらわれずに、
我がこと、丸ごとできるように
- ・地域共生社会へ ⇒縦割りではなく、支えて受けてではなくて
⇒他人事ではなく、自分事として、行動する
- ・情報があっても知る機会のない人もいる
⇒できない人にはつなげてあげる(使える人が) それが関係性が出てくる

みんなで「はまかだ」④

はまかだを推進するための協働(お互いさま)とは？

- ・はまかだスポットに集まる人は高齢者が多い
⇒公民館、仮設の集会所もあるが、もともとのグループ、近所があり、気軽にはまかだできないこともある
- ・高齢者の中では、パソコンやスマホなどの機器の操作が苦手な人もある
- ・ポスターなどを活用してほかの方法もあっていいのでは
- ・集まれる場があっても、実際には続けることは難しい
- ・モデルを作ることも大事では
- ・平日しかやっていないスポットもあるので、日曜日などもあると参加しやすい
- ・はまかだスポットなど運営していくとき、先頭にたって進められるリーダーが大事

みんなで「はまかだ」⑤

はまかだを推進するための協働(お互いさま)とは？

- ・最近やった、はまかだ ⇒はまかだはしてないけど、と意味づつしている
⇒なんか、特別のような気がするけれど、実はしている
それが、はまかだだと認定してくれる人がいるといい
- ・何かやろうとしたとき、自分では言い出しにくい
⇒近所の人や、犬などのつながりがあるといい
- ・フォークダンス、カラオケ、日本舞踊なども、スポットガイドにのせても
- ・男子をどうするか
⇒どこではまかだしてるのかな？ グラウンドゴルフ、浜で？、シルバー人材センター
作業の中ではまかだができるのではないか、送迎システムも必要
- ・甘え上手女子と、頼られたらがんばる男子のかけ算がいい

次回(平成29年度第3回)未来図会議予定

◆日時

平成29年7月20日(木)13:30~15:30

◆メインテーマ

地域に入っていくということとは？
～その地域の持っている力を醸成していく
ためには～

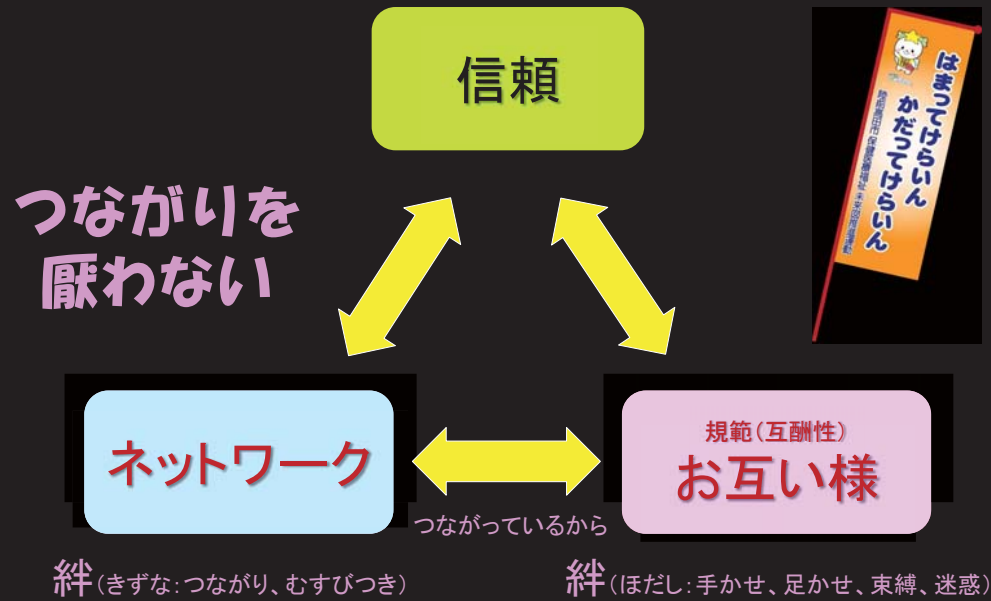
◆会場:陸前高田市役所4号棟3階第6会議室

平成29年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

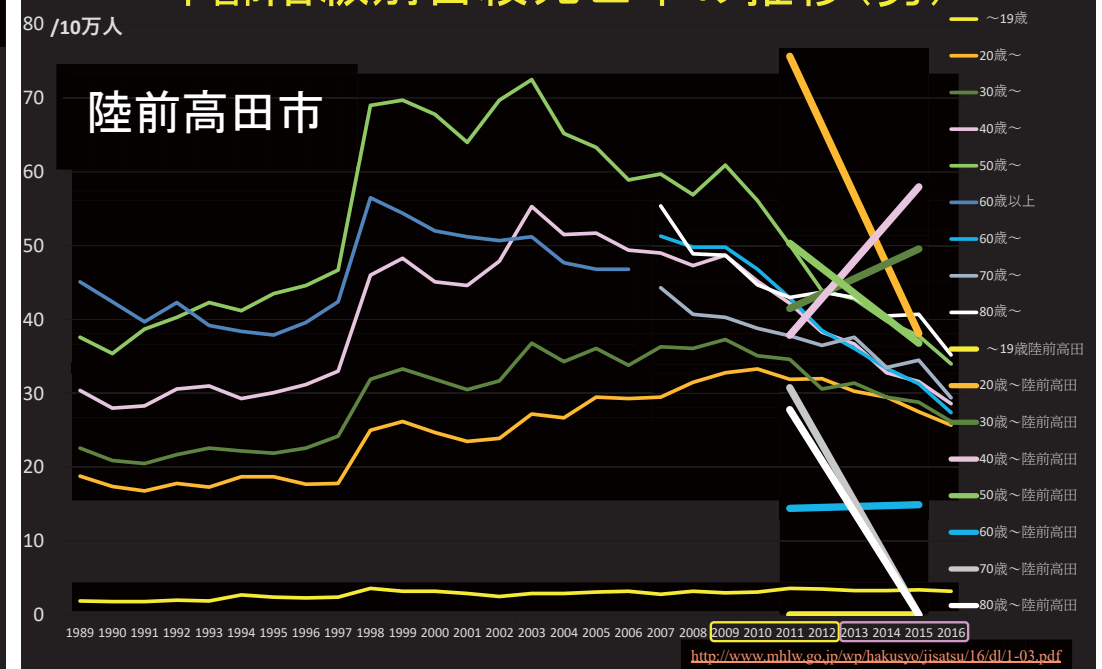
○日程(※H29.3月アナウンスから変更あり)

H29年: 8月18日(金) 13:30~15:30
10月13日(金) 13:30~15:30
11月9日(木) 18:30~20:30
12月15日(金) 13:30~15:30
H30年: 1月19日(金) 13:30~15:30
2月16日(金) 13:30~15:30
3月23日(金) 13:30~15:30

ソーシャル・キャピタル (絆(きずな+ほだし)がある居場所) の三要素

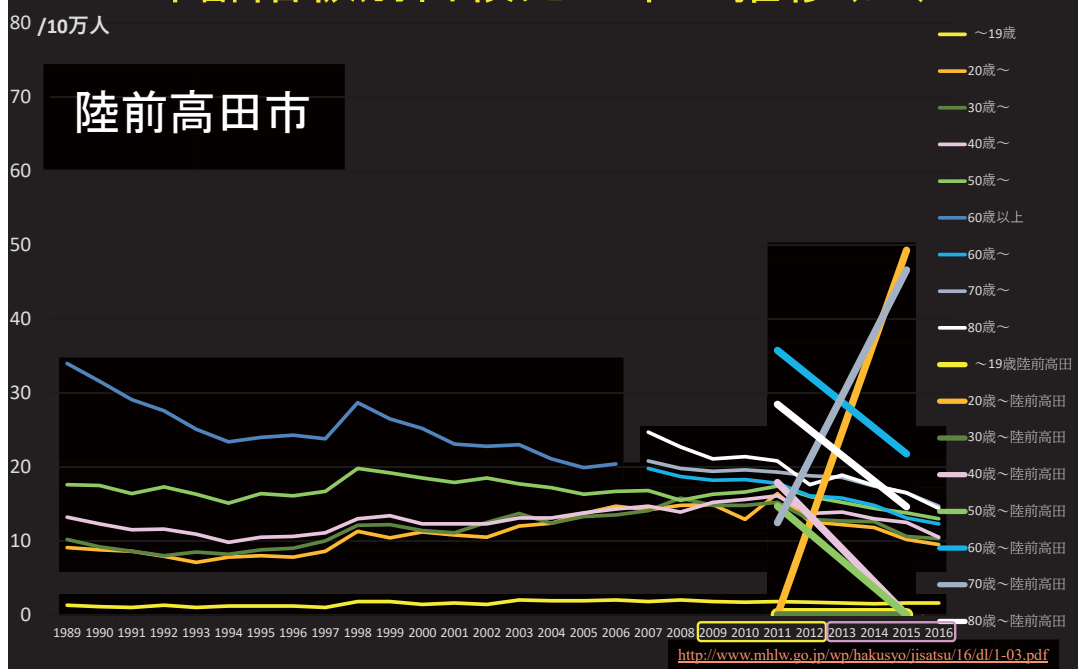


年齢階級別自殺死亡率の推移(男)



<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/16/dl/1-03.pdf>

年齢階級別自殺死亡率の推移(女)



<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/16/dl/1-03.pdf>

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 テーマを広く募集します！

- ・ご希望の日程
- ・テーマ名
- ・ご担当者
- ・連絡先

今日配付の申込書
をお使いください

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

The screenshot shows a web browser displaying a Google Forms registration page. The page title is "陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイト". Below the title, there is a sub-header "参加希望申し込みサイト" and a note: "未来図会議への参加をご希望される方はここから申し込んでください。". There are two required input fields: "氏名*" (Name) and "メールアドレス*" (Email address). The browser's address bar shows the URL: "docs.google.com/forms/d/1ZVNHASz2jUzP_YAStoole-u6p6E7FmN8F9_a1hBxxA/viewform?c=0&w=1".

陸前高田市保健医療福祉未来図会議
平成 29 年度 月別テーマ申込書

未来図会議の活用をご希望の方は、こちらの用紙へ必要事項を記入し、
メールまたは、**FAX**にてご返送ください。

メール：佐々木亮平 ryou-hei-1115@topaz.ocn.ne.jp

FAX：陸前高田市保健課 0192-55-6118

①担当者の情報をお願いします。

所 属 名		氏 名
住 所	〒	
連絡先	※日中に連絡可能な番号をご記入ください。	
	電話番号:	
	E-mail:	

②下記の日程で希望される日程に○をご記入ください。(複数可)

希 望 テ ー マ			
実施日程	平成 29 年 8 月 18 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>
	10 月 13 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>
	11 月 9 日 (木)	18 : 30 ~ 20 : 30	<input type="checkbox"/>
	12 月 15 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>
	平成 30 年 1 月 19 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>
	2 月 16 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>
	3 月 23 日 (金)	13 : 30 ~ 15 : 30	<input type="checkbox"/>

「もっと」
地域を
元気にしたい!



近くで活動する
仲間と学ぼう!

平成 29 年度

まちづくり コーディネーター 育成講座

会場：陸前高田まちづくり協働センター
陸前高田市高田町字大隅 93-1 高田大隅つどいの丘商店街内

まちづくりや地域づくりの
基本的な考え方や進め方を学び、
地域資源の活用や課題解決を促す
コーディネーターになりませんか?

全 4 回 (1 回だけの受講も OK !)

第
1
回

7/5 (水) 13:30~16:30
まちづくりの基礎知識

第
2
回

7/19 (水) 13:30~17:30
話し合いのしかた (ファシリテーション)

第
3
回

8/9 (水) 13:30~16:30
企画立案① 課題の抽出・整理

第
4
回

8/30 (水) 13:30~16:30
企画立案② 企画書作成・プレゼンテーション

9/13 (水) 13:30~16:30
広報の考え方とチラシの作り方

▶ 詳しくはチラシ裏面へ



講座内容

第1回

7/5 (水) 13:30~16:30

まちづくりの基礎知識

「まちづくり」や「地域づくり」はなぜ必要なのでしょうか。そして、誰がどう関わっているのでしょうか。陸前高田市が持つ資源や課題を例に、基本的な知識を学びます。

第2回

7/19 (水) 13:30~17:30

話し合いのしかた (ファシリテーション)

会議や話し合いに参加して、なんとなく不満が残ったことはありませんか？ 参加者みんなが納得できる話し合いの設計や進め方のテクニックを学び、実践を通して身につけます。

第3回

8/9 (水) 13:30~16:30

企画立案① 課題の抽出・整理

地域の課題にはどんなことがあり、地域の方で解決するにはどうしたら良いのでしょうか。様々な分野で活動する参加者が協力し合い企画を作る実習を通して、考える力を育みます。

※原則面口で参加ください

8/30 (水) 13:30~16:30

企画立案② 企画書作成・プレゼンテーション

企画案を企画書に落とし込み、人に伝える練習を行います。思いついた企画を現実にするには、どのような障壁があり、どのような準備が必要なのか、参加者が協力して考えます。

第4回

9/13 (水) 13:30~16:30

広報の考え方とチラシの作り方

自分たちの活動やイベントをたくさんの人に知ってもらうには、どのような方法があるのでしょうか。対象に合わせた広報の方法や、チラシデザインの基本を実践しながら学びます。

理解をより深めるため、**次回に向けての宿題**が出ることがあります。各回ごとの申し込みも可能ですが、できる限り**全回通しての受講**をおすすめします。

定員：各回 15 名

会場：陸前高田まちづくり協働センター

参加費：各回 1,000 円

全回 3,000 円

※別途ハンドブック代 500 円
(持っていない方のみ)

NPO 等団体の新人スタッフや、まちづくりに関心のある方などどなたでもご参加いただけます。

※平日日中の参加が難しい方向けに、今秋、平日夜間・週末の講座も行います。

お申し込み方法

下記の連絡先まで、お電話・FAX もしくは直接お申し込みください。

受講者氏名

所属

住所

電話番号

参加希望

第1回 ・ 第2回 ・ 第3回 ・ 第4回

主催・連絡先

陸前高田まちづくり協働センター

〒029-2205 陸前高市高田町大隅 93-1 高田大隅つどいの丘商店街内 11 号
電話番号：0192-47-4776 FAX：0192-47-4778

陸前高田市保健医療福祉未来図会議実施要領

(会議の趣旨)

第1 住民の生活にかかわる関係者が集まり、**住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災からの復興に向けた地域にとって望ましい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。**会議の名称を「陸前高田市保健医療福祉未来図会議（以下「未来図会議」という。）」とする。

(実施主体)

第2 実施主体は、陸前高田市とする。ただし、未来図会議の企画・運営等については、陸前高田市**被災地絆づくりアドバイザー**（以下「アドバイザー」という。）と協働して行うものとする。

(実施内容)

第3 次の各号に掲げる内容について、保健医療福祉分野からの視点により、関係機関で実施できることを検討する。

- (1) 陸前高田市保健医療福祉の中・長期展望（未来図）に関すること。
 - (2) **ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進に関すること。**
 - (3) **「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進に関すること。**
 - (4) 地域コミュニティづくりの推進に関すること。
 - (5) 保健・医療・福祉その他諸制度及びサービスの活用に関すること。
 - (6) 在宅療養に関すること。
 - (7) その他、住民生活に支援が必要と認められること。
- 2 検討に**あたっては**、高齢者、小児、メンタルヘルス等のテーマに分けて、分科会を設けることができる。

(参加者)

第4 陸前高田市の保健医療福祉の未来図、**これからの健康づくりを通じた地域づくりについて関心のある者。**（一般市民、NPO、市内外の保健医療福祉各関係機関、市内外で活動する健康づくりに関する団体、大学、健康分野以外の関係機関、陸前高

田市役所各課等)

2 参加希望者は陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイトから事前に申し込むことができる。

3 参加者は、会議の参加時に出席者名簿に参加の旨を記入すること。

(記録の作成および公開)

第5 未来図会議の議事録は、陸前高田市役所職員が作成する。

2 前項の議事録及び未来図会議内で共有された資料は、ホームページ「災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま」で公開することができる。

(メーリングリスト)

第6 参加者間の情報共有のために、未来図会議メーリングリストを作成することができる。

2 参加者は、前項のメーリングリストに登録することにより、事前の出席報告及び会議で活用したい資料等を、アドバイザーと意見調整することができる。

(留意事項)

第7 アドバイザーと関係各所(参加希望者、陸前高田市役所関係課等)は、未来図会議前にミーティングを行うものとする。

(要領の改定)

第8 この要領は、震災復興の進捗状況に合わせて改定するものとする。

附則

制 定 平成25年5月1日

一部改正 平成29年7月1日

陸前高田市保健医療福祉未来図会議について

1 会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、**住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災からの復興に向けた地域にとって望ましい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論します。**

2 運営

未来図会議の企画・運営等は、陸前高田市**民生部保健課保健係**（以下「**市保健課**」という。）と陸前高田市**被災地絆づくりアドバイザー**（以下「**アドバイザー**」という。）が協働して行います。

※陸前高田市**被災地絆づくりアドバイザー**

佐々木亮平氏

岩手医科大学 **医学部衛生学公衆衛生学講座 助教（保健師）**

岩室紳也氏

ヘルスプロモーション推進センター 代表（医師）

3 内容

以下の項目について、保健医療福祉分野の視点により、実施できることを参加者で検討します。

- (1) 陸前高田市保健医療福祉の中・長期展望（未来図）に関する事。
- (2) **ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進に関する事。**
- (3) **「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進に関する事。**
- (4) **地域コミュニティづくりの推進に関する事。**
- (5) **保健・医療・福祉その他諸制度及びサービスの活用に関する事。**
- (6) **在宅療養に関する事。**
- (7) **その他、住民生活に支援が必要と認められる事。**

4 参加者

陸前高田市の保健医療福祉の未来図、これからの健康づくりを通じた地域づくりについて関心のある者。（一般市民、NPO、市内外の保健医療福祉各関係機関、市内外で活動する健康づくりに関する団体、大学、健康分野以外の関係機関、陸前高田市役所各課等）

5 参加申込（以下の方法での申し込みが可能です）

- (1) ホームページ「災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま」の「陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイト」から事前に申し込む
- (2) 未来図会議メーリングリストから事前に申し込む
- (3) 開催日当日に直接会場で申し込む

6 未来図会議メーリングリスト

ホームページ「陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイト」から登録できます。

未来図会議のメーリングリストに登録することで、事前の出席報告、会議で活用したい資料等をアドバイザーと意見調整することができます。

7 資料の公開

未来図会議で共有された資料は、ホームページ「災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま」内の「陸前高田市保健医療福祉未来図会議」で公開します。

8 記録

会議の議事録は、市保健課職員が記録します。また、議事録は次回の会議時に、出席者に配布します。

9 分科会について

分科会は高齢者、小児、メンタルヘルス等のテーマに分けて実施することができ、次回以降の内容を必要に応じて決めます。

10 その他

- (1) 出席者名簿を作成していますので、参加する方は名簿に出席の旨を記入してください。
- (2) 会議自体も「はまってけらいんかだってけらいん運動」の一環であることを周知するために、会場に「はまってけらいんかだってけらいんのぼり旗」「ミニのぼり旗」等を掲示します。
- (3) 議事録は、会議後 3 週間程度でアドバイザーが「災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま」に掲載します。
- (4) 事前の準備として、会議前日にアドバイザーと関係各所（参加希望者、市役所 民生部保健課、子ども子育て課、地域福祉課、市民課等）で事前ミーティングを行います。

11 関連サイト

- (1) 陸前高田市ホームページ <http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/>
- (2) 災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま
<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

平成29年度 陸前高田市保健医療福祉未来図会議アンケート

この度は、当市の未来図会議に参加していただきありがとうございました。お手数でございますが、最後にアンケートのご協力よろしくお願い致します。当てはまるものに☑をつけてください。

1. **性別をお答えください。**

男性 女性

2. **お住まいはどちらになりますか。**

市内 県内市外 県外 ()

3. **所属はどちらになりますか。(複数回答可)**

市民 NPO 等ボランティア 民間団体 行政関係 その他

その他：

4. **参加回数は何回になりますか。**

1回 2~5回 6~10回 10回以上

5. **未来図会議をどこで知りましたか。**

災害FM インターネット ココミ その他 ()

6. **未来図会議のメーリングリストに登録していますか。**

はい いいえ(希望する: @) いいえ(希望しない)

※希望される方は氏名と所属をお願いします。

7. **今回の未来図会議に参加してみたいかかでしたか。**

大変満足 期待どおり どちらともいえない 不満 大変不満

理由：

8. **今後の未来図会議についてあなたの思い・意見をお聞かせください。**

例) 関心がある内容、議論してほしい内容(母子、高齢者、災害公営住宅等)

ご協力ありがとうございました。

平成29年度 第1回（震災後77回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「未来図会議はなんのために」

日時：平成29年5月12日(金)13:30～15:30

場所：陸前高田市コミュニティホール1階集会室

参加：38名 12団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

1 導入説明

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 佐々木亮平氏

今年度1年間の未来図会議は、「はまってかだつてではじまるノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり」ということで進めていく。

2 内容

- (1) これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて
陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚
- (2) 未来図会議が目指してきたこと ～一人一人が元気になる地域づくりに向けて～
陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也氏
- (3) 未来図会議参加者による意見発表
- (4) その他連絡・アナウンス

(1) これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて

(陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚)

未来図会議が始まって以降、状況はいろいろ変わってきた。仮設住宅はまだあるが、高台移転や災害公営住宅建設とかなり進んでいる。未来図会議の価値は理解しているが、来図会議を含めたコミュニティ支援事業を国の交付金に申請したが、現在財源が確保できていない。財源が確保できない状況で事業を行うことはできないので、この価値とこれから引き継ぐべきことについて考えるべきである。被災地として住民の生活課題に向き合わなければいけないが、今出来ることは、介護、健康、地域で市が、住民、NPOも含めて、お互いに手を携えて地域課題解決に向かうことが、相当の価値と効果があるという再確認になった。私たちはこの間、未来図会議を通じてヘルスプロモーションに基づく環境を全体的に整備し、地域資源、ネットワークづくりを基盤にしながら、みんなが住みやすいま

ちをつくっていくことが今後の課題であることを学習した。それを総括的に表しているのが、「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまち」である。具体的には、「はまってけらいん、かだつてけらいん」ということが本当に市民の間に大きく広がっていくことが、今後、市の健康づくりや介護予防や地域づくりを進める大きな基になっていく。

当市は、客観的に見ても産業が豊かなわけでもない。医療、介護、健康づくり、地域づくりを進め、住む方、訪れる方が、居やすく、住むにふさわしい場所だと思えるような魅力のある市をつくるのが、小さな陸前高田市が生き残っていく術だと思っている。

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也氏：

陸前高田市の女性の平均寿命は今や岩手県でナンバーワンになっている。全国で東日本大震災を機に若者の自殺者数が減ってきているのは震災の影響で、高齢者の自殺者数が減ったのは、介護保険の導入による。国は、健康日本 21 の第 2 次を東日本大震災後の平成 24 年に打ち出しているが、その中で地域のつながり強化を訴えている。つながりと言えば、「絆」だが、もう一つの読み方は「絆（ほだし）」、「手、足、束縛、迷惑」である。この 2 つが相反するからお互い様ということになる。

地域のつながりができているところでは、信頼、ネットワーク、お互い様という関係性を築くことが出来、そこでは人は健康行動をとり、自殺も減り、総死亡率も減る。それだけでなく、まちづくりにもつながる。

どこでどのようにつながるかにはわからないが、つなぎ・つながり続けることが大切である。このような仕掛けに賛同し加わってくれたのが SAVE TAKATA で、「はまかだスポット」の発掘に取り組んでいただいている。

これからも皆さんと一緒に考え続けたい。

陸前高田市 民生部長 菅野利尚：

私自身、すべての会議に出席したわけではないが未来図会議から伝わってくるものを受け取っていたと思う。震災からの復興そのものがそうであったように、私たちにとっては日々の生活そのものが戦いであり、実践だ。東日本大震災が、人類史上稀にみる自然災害ということで、与えた影響、そしてどのように立ち上がっていくか、本当に大きな課題と教訓を含んでいるのだろうと思う。私たちは日々追われる中で、今を受け止めて、それからどう立ち上がり変えていくか、引き続き、みんなで一緒に行っていけば良い。岩室先生の話聞いて、それが間違っていることではないと実感できており、いつもありがたいと思っている。

陸前高田市保健課 保健師 遠藤 綾子：

先日、広田地区で保健推進委員からの希望が発端で健康教室を開催した。当市の保健推進員は改選期があるが年々顔ぶれが変わってしまい、年々活動を継続していくことが難し

い地域であった。新旧メンバーの顔合わせを兼ねてつながりを持ち、もともと活動していた食生活改善推進委員との協働開催を提案した。

陸前高田市保健課 主任栄養士 佐藤絵里：

広田地区には、食生活改善推進員がいるが、なかなか自主的に活動することが出来ていなかったが、何か自主的に活動したいという思いは強かった。地域とのつながりが強く、まとまりがあったことが健康教室の合同開催につながった。

陸前高田市保健課 保健師 遠藤 綾子：

保健推進員の会議と食生活改善推進員の研修会が続けてあった。岩室先生の話聞き食生活改善推進員の広田地区代表者よりぜひ保健推進員と話したいと申し入れがあり、食生活改善推進員と保健推進員が話し合える場を設け、今回の健康教室合同開催が実現した。

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 佐々木亮平氏：

年度末に、保健推進員の活動を振り返る機会があった。未来図会議で話しているような内容をメンバーで振り返った。町の中で、何ができるのかについて話し合った機会があったから、今回の健康教室合同開催につながった。

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也氏：

岩室が話したから皆さんが動いたわけではなく、仕掛けられた中で遠藤保健師が上手く調整して健康教室合同開催を実現させている。

釜石保健所長兼大船渡保健所長 平賀瑞雄氏：

今年度より釜石保健所長兼大船渡保健所長をしている。前任地は島根県松江保健所だった。島根では町内会自治会があり、健康推進員もいる中で、住民主体で健康づくりが位置づけられ、地区の中に健康づくりの会がある。年に1回総会があり、各地区の1年間の活動報告を行い、成果と、次年度の活動予定を周知する。自分たちのできることを皆で考え、自主的に行っている。

そこに至るまでの仕掛けを作ったのは、実は行政である。健康診断の結果を地域に返ししながら、住民に話題を作りながら進めてきた経緯がある。住民一人一人が自分の頭で考え行動することが出来ていた地域であった。高齢化が急激に進み、職場環境も変わってきている。若い時は活発に活動していた方が加齢とともに引退していくため、後継者づくりが難しいが、皆で出来ることを皆で考え、決めて行う仕組みは現在も続いている。

10年ほど前、ある町健康推進員の総会に参加した。会長の魚屋の奥さんが挨拶で、「経済格差はあっても、健康格差はあってはならない」と話し、地域の活力のようなものを感じた。今日、この会議に出席して、皆さんが話す様子をみて感心した。震災という共

通の体験をされた方が自分たちでどうしていくかということを実際に考え、お互いに意見を出し合える場であり、聞いてもらえる場になっていると感じた。皆が抱えている問題を出し、考えていく場で議論し、市や県などの行政に必要なことを提言していく場となり、素晴らしいと感じた。自分たちで作りに上げていく活動という意味では、素晴らしい。ぜひ、未来図会議を継続して、必要に応じて行政への要望を出すことも含めて、行政との関係を構築する上で大切である。

陸前高田市 民生部長 菅野利尚：

肌身で感じている参加者の皆さんの抱えている未来図会議の価値が理解できたように思う。先ほど平賀保健所長も述べていたが、現在行政が行っていることを市民向けにアピールする場が年 1 回でもほしいと思う。そのような機会を設けることで市民の支持拡大、参加意識向上につながるのではないかと。未来図会議で情報共有が出来て良かったと思っただけのことではもちろん良いことである。このような場、機会が拡大すれば良いと考えている。

4 その他連絡・アナウンス

一般社団法人 SAVE TAKATA 佐藤睦志氏：

昨年の 9 月ごろから未来図会議に参加させていただいている。以前は、課題解決を目的としたまちづくり NPO 団体として活動していた。自分たちで声を掛け合ってソーシャルキャピタルを造成していくことが大切だと感じるとともに、力を入れて取り組まなければならないと感じている。今年 3 月に「はまかだスポット」ガイド展示会を行った際、来場者に「はまかだ」を知っているか尋ねると知らないとの声が聞かれた。また、「はまかだ」ののぼりについて知っているか尋ねたところ、「知っている」「見たことがある」との声が聞かれた。のぼりの意味の理解が深まれば、さらに拡大することが出来るのではないかと。そこで、「はまかだ」の意味の周知を図るため、パンフレット作成を企画している。まだ編集段階ではあるが、構成としては、初めに玉山金山の黄金伝説を掲載した。炭焼きの男性がおり、宮古のほうから妻をもらうが金の価値を教えてもらい、幸せに暮らしたという内容である。市民の皆さんは、「はまかだ」の価値を感じていないが、金山の金と同じような価値があることを説明するために取り上げた。また、ソーシャルキャピタル (+)、ポピュレーションアプローチを含めた内容を掲載している。この場には、専門に活動されている方もいるので、ぜひ皆さんの目で監修し、何かあれば、私までご連絡をお願いしたい。もう一つ付け加える予定としているのが、「はまかだ」から「ノーマライゼーションの言葉のいらぬまち」へという意味である。SAVE TAKATA でデザイナーの協力を得ながら作成し、配布したいと考えている。

りくカフェ 及川恵里子氏：

- ・りくカフェの春号の紹介
- ・りくカフェの飲食部門に野菜を提供してくださっている女性の記事の紹介

社会福祉協議会 安田留美氏：

- ・盲聾(ろう)者体験会の紹介 (コミュニケーション方法を含む)
- ・宮城県看護協会が主催する看護の日イベントの紹介

一般社団法人 SAVE TAKATA 山本健太氏：

- ・Brooming TAKATA が主催する、わくわく健康づくりセミナーの紹介

陸前高田市保健課 保健師 佐藤沙希：

- ・岩手県看護協会主催の看護の日イベントの紹介

NPO法人 福祉フォーラム・東北 朝日のあたる家 長友智郷氏：

- ・名誉館長 長澤茂氏の講演会の紹介

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室伸也氏：

「はまかだ」は間違いなくソーシャルキャピタルを醸成する手段の一つであり、どのようにして場をつくるのかを考えていく必要がある。「はまかだ」をすることによって自殺は減る。はまかだスポットのパンフレットを作成していただき、もっと周知拡大できるようにしていきたい。りくカフェではまかだを実践することで食生活改善だけではなく、自殺予防や健康づくりにつながる。

社会福祉協議会の安田氏が述べていたように、「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」を実現するためには、意識しなくてもいい、年齢を重ねたり目が見えなくても、その状況を意識することがないまちにすることではないだろうか。ノーマライゼーションの言葉が必要なまちというのは、障がいがあることを意識しながら、意識させられながら暮らさざるを得ないストレスの多いまちである。ストレスが多いと、どうなるか。今年の AIDS 文化フォーラム in 陸前高田の打ち合わせで、LGBT（レズ、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）と言われる方々はストレスを感じて、結果的につらくて薬物に依存して同じ注射器・針を使用した回し打ちによって HIV に感染し患者となるという悪循環を辿ってしまうことが続いている。このような状況から立ち直っている方は、友人を作り「はまかだ」を通して自身の周りに差別のない環境をつくることで薬物から脱している。自分が失敗したことを言える環境をどのようにしてつくっていくか、これからも一緒に考え続けたいと思う。

◇次回（第78回）：平成29年6月23日（金）13：30～15：30

メインテーマ（案）：はまかだスポットガイドと居場所づくりについて①

会場：陸前高田市役所 4号棟3階第6会議室